

2022年度(第56次)研究助成応募状況

2022年度(第56次)研究助成は、募集を1月11日に締め切ったところ28件の応募がありました。応募の内訳は右下表のとおりです。

本事業は“広告・広報・メディアを中心とするマーケティングおよびコミュニケーション等”分野の常勤研究者および大学院生を対象に研究助成を行うものです。助成金の給付のほか、助成対象者が利用できる消費者調査を実施します。提出された研究成果は審査の上、優秀な研究に「助成研究吉田秀雄賞」を授与します。

自由課題と指定課題を募集し、今年度は以下3点の指定課題を設定しました。

- 1) 消費者との効果的なコミュニケーションを行う方法に関する研究
- 2) 広告・コミュニケーション研究やマーケティング研究の新たな方法論の開発につながる他領域における関連研究
- 3) パンデミックがもたらしたインパクトに関する研究

2022年度の助成対象研究は、右記のメンバーによる選考委員会を経て3月の理事会において決定されます。

選考委員長	嶋村和恵	早稲田大学教授
選考副委員長	清水 聡	慶應義塾大学教授
選考委員	青木貞茂	法政大学教授
選考委員	阿久津 聡	一橋大学大学院教授
選考委員	井上哲浩	慶應義塾大学大学院教授
選考委員	岸 志津江	東京経済大学教授
選考委員	久保田進彦	青山学院大学教授
選考委員	里村卓也	慶應義塾大学教授
選考委員	澁谷 覚	学習院大学教授
選考委員	田中 洋	中央大学大学院教授
選考委員	疋田 聡	東洋大学名誉教授
選考委員	南 知恵子	神戸大学大学院教授
選考委員	吉見俊哉	東京大学大学院教授

応募数(前年度比)

常勤研究者		大学院生		総数(前年度比)
22		6		28(-12)
継続研究数	指定課題数	継続研究数	指定課題数	
9	12	1	2	

Editor's Note

地方都市の若手建築家たちが手掛ける生活者目線の住宅が進化していて、とても素敵だ。高気密高断熱、三重樹脂サッシは大前提。来客と家族は別動線、土間収納、ファミリークローゼット、そして照明やスイッチパネル、床壁天井の素材も多様で施主に合わせた“○○ライク”デザインは見て楽しい。高級な樹脂モルタルやペイント材を使って施主と共創するなど、コストを抑えて理想を実現する工夫が素晴らしい。機能的・快適で、楽しそうな住まいだ。規格物件ばかり目にする自分も心を揺り動かされ、リノベしたくなる。(傾)

今年度、本誌は「トランスフォーメーション」をキーワードに、組織やチーム、働く個人の意識の変化や興味深い取り組みをご紹介しました。各号において、産・学それぞれの立場からさまざまなご意見をいただきましたが、その中で頻りに登場したのが「自立」という言葉でした。今号の「サービスのカスタマイズ」では、自ら選択する機会が増えた生活者へのサービスがどう進化していくのか、を中心に多様な意見を頂戴しました。膨大な情報量と迷うほどの選択肢の中から“自分らしいもの”を選ぶ状況を、自由だと楽しめるようになりたいです。(葡萄)

世の中の「型」に窮屈さや違和感を覚えることは、誰にでもあります。そうした不満を解消してくれるのがカスタマイズです。ITが柔軟な働き方やライフスタイルを後押しする一方で、3Dプリンターなどの技術によりモノのカスタマイズも身近で手軽なものになりつつあります。自然環境に多大な負荷をかける大量生産、大量消費、大量廃棄のあり方が見直される中、カスタマイズは個人を満足させる以上の価値を持っていくのだろうと感じます。自然環境への配慮と贅沢さを兼ね備えたカスタマイズ・ビジネスは、今後ますます活気づくでしょう。(ひろた)

AD STUDIES 2022年3月25日号 通巻79号
 公益財団法人 吉田秀雄記念事業財団
 〒104-0061
 東京都中央区銀座7-4-17 電通銀座ビル
 TEL: 03-3575-1384 FAX: 03-5568-4528
 URL: http://www.yhmf.jp

発行人 岩下 幹
 編集長 布施博嗣
 編集部 岩本紀子、沓掛涼香
 編集協力 プレジデント社
 表紙デザイン 八木義博+藤田将史、中谷晴子(Creative Power Unit)
 撮影 片村文人

本文デザイン 南 剛(中曽根デザイン)
 校正 株式会社ヴェリタ
 印刷・製本 大日本印刷株式会社

©公益財団法人 吉田秀雄記念事業財団
 掲載記事・写真の無断転載を禁じます。